

ブック

テクノロジーが飛躍的な進歩を遂げ、学校教育の場でもAIへの対応が喫緊の課題となっている。本書は、数理論理学を専門とする著者らが開発した「リーディングスキルテスト（RST）」の結果、及び、専門的な理論に基づいて「AIに負けない子ども」の育成には、読解力が必要であることが主張されている。

RSTは「事実について書かれた短文を正確に読むスキル」を、①係り受け解析、②照応解決、③同義文判定、④推論、⑤イメージ同定、⑥具体例同定の6分野7項目で構成されており、本書では体験版として28問出題されている。そして、RSTを受検した14万人の結果から、RSTと「全国学習状況調査」の成績には中程度の相関があることを述べている。

次に、リーディングスキル

新井紀子 著
1760円 東洋経済
☎03-6386-1040

AIに負けない子どもを育てる

新井紀子

AIに負けない子どもを育てる

(RS)を向上させるためには、読解力を培うことが必要であるという著者の主張から、小学校4年生国語「正しく伝えよう」、4年生算数「言葉のとおりに図形をならべよう」、中学2年生数学「偽定理を探せ」の授業を提案している。さらに、意味がわかって読む子どもに育てるために、幼児・児童期にRSを向上させる教育として、以下の様な具体例を示している(紙幅の都合上抜粋)。幼児期では、「身近な大人が絵本を開いて、繰り返し読み聞かせをしてあげて欲しい。小学校低学年では、『カラスが電線にとまった』など、主語と動詞と目的語を使って見たことを短い文で説明できるようにするために、『何がどうした?』遊びなどを通じて、文の基本構造を理解したり、語彙を増やしたりする機会を十分に与えたい」等、教育は、AIに取って代わることができない読解力や創造力を育てることが重要であることが認識できる。

(愛知教育大学教授・高橋美由紀)